

講演

人生100年時代の歯科治療を見据えて 「豊かな人生を送るための歯周病治療とは」

若林 健史

ICDフェロー

●抄 録●

政府が昨年発表した「経済財政運営と改革の基本方針2022」、いわゆる「骨太の方針」に、「国民皆歯科健診の具体的な検討」の一文が明記された。国民が高齢になっても多くの歯を残し、健康寿命を延ばすことで、医療費の抑制を目指すことを目的とした施策であり、歯科医療に関わる業界でも関心を集めている。ネットの反応などから、このニュースに対する一般の方の関心が高いことがわかる。

果たして歯科の病気を予防すれば、本当に医療費が削減できるのか？ 多くの方が疑問に感じる部分だろう。ある自動車部品メーカーの健康保険組合により被保険者の医療費を詳しく分析した結果、歯周病にかかっている人では、歯科以外の病気に使われた医療費が、そうでない人よりも、多いということが明らかになった。さらに定期的な歯科健診を実施していた事業所では、医療費が5年間で最大23%も減少したのに対し、実施しなかった事業所では24%増加していた、という結果も得られている。定期的な歯科健診の有無によって、ここまで大きな差が生じているのである。

心筋梗塞や脳梗塞、糖尿病、肥満や誤嚥性肺炎、アルツハイマー病など、歯周病が引き金になって起こる数多くの全身病が明らかになってきている。国民皆歯科健診が普及し、歯周病になる人を減らすことでこうしたさまざまな病気の減少につながれば、国民の健康に大きく寄与するのではないだろうか。

そこで今回は、患者と共に歩む歯周病治療をどのような方法で行なっているのか、当院のシステムを紹介しながら解説したい。

(2023年2月19日に国際歯科学士会(ICD)日本部会事務局会第53回冬期学会のオンライン講演会をまとめたものです)

キーワード：国民皆歯科健診、医療費削減、全身疾患、歯周病治療

厚生労働省によれば、海外の研究で2007年に日本で生まれた子供の半数が107歳より長く生きると推計されており、日本は健康寿命が世界一の長寿社会を迎えている。

70歳、80歳になっても仕事や趣味に参加し、生き生きと豊かな人生を送りたいと思う人は増えている。そのために大事なのが健康な歯であり、食べることはも

ちろん、会話や若々しい顔貌を保つために欠かせない。一方、80歳時点での日本人の平均残存歯数は16.7本。8020達成者は51.2%と半数以上の人が80歳で20本以上の歯を残せるようになったものの、まだ、十分とは言えない。これを100%に近づけていくためには日本人が歯を失う原因の第一位である歯周病を予防、治療することが大事である。

歯周病を治療すると歯が残せるだけでなく、血管を若返らせることができる。歯周病により歯肉に炎症が起こると、複数の炎症物質がたくさん産生される。炎症物質が血管に入り、全身にまわることでインスリンの働きが悪化したり、早産、肥満の促進、動脈硬化やその合併症である心筋梗塞や脳梗塞など、血管にかかる全身病の要因になることがわかっている。中でも



※冬期学会講師

(わかばやし・けんじ)
医療法人社団真健会
若林歯科医院 院長

インスリンの働きの悪化は糖尿病の悪化要因となり、歯周病があると糖尿病が悪化しやすく、糖尿病が悪化すると歯周病が悪くなりやすいという具合に双方向に悪影響がおよぶことが知られている。

また、最近では歯周病が一部のがんやアルツハイマー病、高齢者の死因として知られる誤嚥性肺炎の発症リスクになるという報告が出てきているほか、多くの病気が歯周病と関係することが示されている。

歯周病の治療計画は、「炎症のコントロール（歯周基本治療）」「力のコントロール（かみ合わせの調整など）」「血糖値のコントロール（糖尿病がある場合）」の3つがベースになる。血糖値のコントロールは特に重要で、血糖値がコントロールできると歯周病の治りが明らかによくなる。

治療のかなめとなる歯周基本治療を担うのは主に歯科衛生士である。しかし、任せきりではだめで、歯科医師や他のスタッフが一丸となってはじめて歯周病治療は成立する。つまり、歯科医師（経営者）自らが歯周病に関心を持つことがとても大事である。

なお、症例写真1と2は重度の歯周病患者に対し、本院スタッフが一丸となって治療をした結果、健康な歯を一部残すことができ長期にわたって歯の健康を維持できている患者のケースである。メンテナンスを継続して受けているため、患者とはそれぞれ30年余、10年余のつきあいとなる。

症例1（図1）

1. 初診時 43歳 男性
2. メンテナンスに移行時
3. 28年経過時 71歳

症例2（図2）

1. 初診時 50歳 女性
2. 14年経過時
3. 初診時と14年経過時の比較 64歳

実は私は最初からこうした理想的な歯周病治療ができたわけではない。きっかけは大学卒業後4年目、アメリカ・ボストンでアメリカ歯周病学補綴学会に参加

し、トップの歯科医師のレクチャーを受けたこと、さらに歯周病専門医の診察室を見学できたことにさかのぼる。そこでは歯科衛生士と歯科医師が連携して治療にあたり、患者に病気の理解やセルフケアの重要性を知ってもらうために、カウンセリングを重視していた。

そこで帰国後、開業の際に私はカウンセリングルームを作り、患者と1対1でじっくりと話をしてから歯周病治療に入る仕組みを作った。これが現在に至るまで、多くの患者で治療がうまくいっている最も大きな要因と確信している。

カウンセリングは歯周病の検査を含む口の中の詳細な検査（当院では歯科ドックと呼んでいる）を受けてもらった後に行う。検査結果の詳細を患者に見せながら、歯周病とはどのような病気なのかから始まり、歯周基本治療ではプラークコントロールが一番大切であること、そのためには、セルフケアとともに、生活習慣の改善やメンテナンスが欠かせないことなどをていねいに説明する。

また、カウンセリングを通じて、「歯はあなたにとってどのような価値があるか」を考えてもらうことも大事である。「おいしいものを食べるため」「恋愛のため」「若く見せるため」など答えは人それぞれだが、価値観を明らかにすることで患者の治療に対するモチベーションがさらに上がる。また、カウンセリングは治療後などにも行う。治療後のきれいな口腔を画像で確認してもらうと患者は「頑張ってこの状態を維持していこう」と思うのである。

政府が2022年6月7日に発表した「経済財政運営と改革の基本方針2022」、いわゆる骨太の方針に国民皆歯科健診の具体的な検討の一部が明記された。国民が健康な歯を保ち、健康寿命を延ばすことで医療費の抑制を目指すことを目的とした施策といわれている。

歯周病を含む歯科疾患を防ぐことが医療費の削減につながることは、自動車部品メーカーの国内最大手企業、(株)デンソーの健康保険組合による調査で証明されている。さらに定期的な歯科健診を実施していた事業所では、医療費が5年間で最大23%も減少したの



図1 症例1



図2 症例2

に対し、実施しなかった事業所では24%増加していた、という結果も得られている。定期的な歯科健診の有無によって、ここまで大きな差が生じているのである。

今後、歯科医院の役割は歯周病を中心とした歯科疾患の予防にさらにシフトしていくと考えられる。かかりつけ歯科医の役割もさらに高まることから、多くの歯科医師に歯周病により関心を持ち、治療に取り組んでいただけることを願うばかりである。

参考文献

- 1) 厚生労働省ホームページ「人生100年時代について」(<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000207430.html>)
- 2) 厚生労働省「歯科疾患実態調査」(平成28年)
- 3) 公益財団法人8020推進財団「平成30年第2回永久歯の抜歯原因」調査
- 4) Axelsson, P. and Lindhe, J. Effect of controlled oral hygiene procedures on caries and periodontal disease in adults. Results after 6 years. *J. Clin. Periodontol.*, 8: 239-248, 1981.
- 5) 定期健診と医療費の関連性調査(デンソー健康保健組合による調査2012.2.11)

Anticipating Dental Treatment in the Era 100-year Lifespans “What is Periodontal Disease Treatment for a Rich Rife?”

Kenji WAKABAYASHI, F.I.C.D.

Wakabayashi Dental office, Director of the Japanese Society of Periodontology

In the “Basic Policy on Economic and Fiscal Management and Reform 2022” announced by the government last year, the so-called “Basic Policy”, a sentence of “Concrete consideration of universal dental checkups” was specified. The goal of this policy is to reduce medical expenses by allowing people to retain more teeth into old age and extend their healthy life expectancy. It can be seen from the reaction on the Internet that the general public is very interested in this news.

Will medical costs really be reduced if we prevent dental diseases? This is the part that many people are skeptical about. A detailed analysis of the medical expenses of insured persons by the health insurance association of an automobile parts manufacturer found that those with periodontal disease spent more medical expenses for diseases other than dentistry than those without. It became clear that In addition, the results showed that medical expenses decreased by up to 23% over five years at establishments that implemented regular dental checkups, while those that did not increased by 24%. It is Whether or not they have regular dental checkups makes a huge difference.

Many systemic diseases triggered by periodontal disease, such as myocardial infarction, cerebral infarction, diabetes, obesity, aspiration pneumonia, and Alzheimer's disease, have become clear. If universal dental checkups become widespread and reduce the number of people with periodontal disease, it will lead to a reduction in various diseases such as these, which will greatly contribute to public health.

Therefore, this time, I would like to explain how we treat periodontal disease together with patients, while introducing our hospital's system.

(This is a summary of the online lecture of the 53rd Winter Conference of the International College of Dentistry (ICD), Japan Section Secretariat on February 19, 2023)

Key words : Universal Dental Checkup, Medical Cost Reduction, Systemic Disease, Periodontal Disease Treatment